

7. 米中貿易構造と通商問題

1. 調査の目的

中国の経済大国化はもう一つの経済大国である米国の経済や産業に大きな影響を与えており、近年の米国通商政策や米国の対アジア政策は中国をいかにグローバル経済に組み込み、その中で米国の権益を保護、維持していくかという問題を中心に展開されてきたといっても過言ではない。本報告書は米中貿易構造の変化とそれが米国産業や通商政策にどのように影響しているのか、および米国産業界および米政府の対応について研究した成果を取りまとめたものである。

2. 調査結果の概要

1) 中国の急速な経済成長とそれに伴う政治的、経済的影響力の急増に対し中国大国化に米国はどう向き合うべきかということに米国の関心が向けられてきている。米国の対中観はブッシュ大統領がいうように「複雑」であるが、それは経済、外交・軍事、人権保護・民主主義の推進というような分野いずれにおいても中国は米国にとって協力者またはパートナーの側面と、また競争相手ないしは対立者としての側面と相異なる両面を示すことから、米国の対中政策や対中観が複雑なものになっているのである。このため中国の大国化を前にして、根本に立ち返って大局的かつ戦略的に中国をどう捉えるのか、米国との関係はどうあるべきか、という議論が米国における中国政策論の中で関心を集めている。最近では中国の台頭を米政府は従前に比べより包括的な戦略上の課題として取り上げるようになってきており、米国の対中通商政策にもステークホルダー論という形でその影響が及んでいる。ただし、対中不満は依然として強く、可能なら対話、必要なら WTO 提訴等の手段を使うという二面作戦にシフトしている。

2) 民主党が主導する議会では通商政策が保護主義的に傾斜するのではないかとの懸念が一般的である。それは過去クリントン政権時代の政策や労働・環境保護を通商協定を通じて途上国に強制する政策等による。2006年の中間選挙以降、民主党の影響力が通商政策全体の基本方針にも及ぶ中で対中通商問題についても WTO 遵守状況や中国の産業政策への批判、また国際労働基準の遵守などの点で民主党が今後どのような姿勢をうちだすのか、注意深く見守る必要がある。

3) 米国では中国製品との競争に晒されている業界や労働組合を中心に中国への批判が高まっている。米中摩擦の今後を展望する上で過去の日米摩擦の経験と比較されるが異なるところも多い。中国産業の競争力に対する見方は航空機などのハイテク産業と半導体、自動車部品などの業界では脅威の感じ方が異なる。これは1980年代に米国が厳しい対日批判を行った当時、日本をハイテクまで含んだ多くの産業で現実あるいは将来の脅威と捉えていた状況とは違っている。中国については米国市場における中国製品の輸入急増、あるいは米国の対中輸出や企業進出における各種中国市場の開

鎖性や障壁に焦点が当たる。この点は過去の日米摩擦とも共通する要因である。しかし、巨額の中貿易赤字の原因には米国市場でシェアを高めている中国製品の競争力とともに、米自動車メーカーが中国からの部品調達を積極的に進めていることに見るように米国製造業自身が輸入依存体質を強めていることにも求められる。

言い換えれば 多国籍企業における東アジアのあるいはグローバルな生産ネットワークに組み込まれた中国の役割、産業構造を高度化する能力 中国の輸出に占める米系企業等外資系企業の役割が大きいことに見られるように、中国に進出している米系企業との関係、等は日米摩擦の当時の状況とは異なっている。このことは米国市場においてメキシコと中国が多く産業で競合していることにも表れている。

4) 米中貿易の中で自動車・同部品の占める比率は現在のところ比較的小さい。しかし自動車部品のような裾野の広い産業で中国製品の市場シェアが高まれば米国の産業界の中国に対する不満や批判が高まり、通商政策全般や対中政策に大きな影響を与えるのは日米貿易摩擦の例からも容易に予測できる。この意味で自動車部品の対中輸入急拡大は注目すべき理由がある。数年前には僅かだった米国の対中自動車部品輸入額は急速に増加しており、しかも比較的高度な部品も輸入されるようになっている。その背景には米国側の要因として、ビッグ3やサプライヤーが中国からの調達を進めていること、サプライヤーも含めて顧客の大規模な生産拠点が中国に移転していることなどがある。

米国では上記のような自動車部品における中国との分業関係について現状では中国の技術開発力の米国と比べた相対的弱さから楽観視する見方が多い。また、アウトソーシングの動向についても専門家はその規模が限定的になる可能性も挙げている。しかし、アウトソーシングを限定する要因であるコスト構造にしても中国内における技術・ノウハウの高度化、海外からの技術移転や吸収、生産拡大による集積効果など、今後ダイナミックに変化しうることから、中国からの部品輸入は今後とも急増し続ける可能性が高い。米国の自動車部品の主要な輸入先は部品の特性などによってカテゴリー別に主要輸入国が異なり、ドライブトレインは日本が主な輸入先である。

米国内の米系メーカーの国内調達率は外資系に比べ従来高かったが、その差は近年縮小しつつある。これは米系メーカーが外国性部品調達を拡大する戦略を取っていること等に起因する。中国からの輸入部品はアフターマーケット用が多いと思われるが、すでにエンジン等の主要部品も含まれており、エレクトロニクス製品を中心に今後急拡大する可能性を有している。